

平成24年度在宅医療連携拠点事業
成果報告会～取組発表～

在宅医療は“まちづくり”



～住み続けたい“まち”をめざして～





美馬市・つるぎ町のご紹介



徳島県



美馬市

(平成24年4月1日現在)

人口：32,181人
 高齢者：9,979人
 高齢化率：31%
 一人暮らし高齢者：2,100人
 一人暮らし高齢者率：6.5%
 高齢者のみ世帯：2,600世帯

つるぎ町

(平成24年9月1日現在)

人口：10,786人
 高齢者：4,219人
 高齢化率：39%
 一人暮らし高齢者：1,290人
 一人暮らし高齢者率：12.0%
 高齢者のみ世帯：2,011世帯



美馬市・つるぎ町の資源の現状

地域の医療、介護、福祉の資源

施設名	美馬市	つるぎ町	合計
病院(二次救急)	7 (1)	3 (1)	10 (2)
有床診療所	10	0	10
無床診療所	17	8	25
介護施設	20	3	23
障害者支援施設	3	0	3
訪問事業所 (訪看・訪介・訪入)	18 (2・15・1)	3 (1・2・0)	21 (3・17・1)
通所事業所 (通介・通リハ)	23 (14・9)	3 (0・3)	26 (14・12)

往診・訪問の条件(資源マップより)

条件	病・医院 (在宅療養 支援診療 所)	訪問看護ス テーション	訪問介護事 業所
往診・訪問をして いる事業所	23(5)	3	17
24時間対応してい る事業所	9(2)	2	2
条件付きで対応し ている	14(2)	2	15

介護施設の定員と待機者数

施設名	定員	待機者
A施設(老健)	80人	100人
B施設(老健)	100人	170人
C施設(特養)	40人	60人
D施設(特養)	100人	30人
E施設(GH)	19人	14人
F施設 (障害者支援施設)	50人 (25人)	20人
G施設 (障害者支援施設)	40人 (6人)	10人

※障害者支援施設の()内の数字は60歳以上の入所者数



医師会との協力の重要性

資源マップの回収率

施設名	送付箇所	回答件数	回答率
医療機関 (病医院)	44	39	88.6%
介護施設(短期入所も含む)	30	29	96.7%
通所事業所	28	26	93%
訪問事業所 (訪問看護ステーション・訪問 介護事業所)	21	16	76.2%
障害者支援施設	3	3	100%

地域の資源を把握するために資源マップの作成を行ったが、医師会からの協力が得られていないことや、当事業に対して正しく理解をしていただけていないため、協力依頼をしても回答をいただけない機関もあった。

医師会は、医療だけではなく、介護・福祉・保健、全ての分野に関わっている。

その医師会の協力がなければ、地域の各機関を取りまとめ、当事業を進めていくことは非常に困難である。



現場の課題抽出と解決策

地域の施設を訪問後、アンケートを実施し各施設の抱える課題を把握した。

※()内の人数はアンケート回答者数

①地域の情報共有ができる場がほしい。(37人)

 **地域連携の会～絆～の発足** (平成23年9月から活動中)

②施設の空き状況が分かれば教えてほしい。

受け入れ条件が各施設で異なるので教えてほしい。(4人)

 **地域連携の会～絆～のホームページ** 管理型ホームページの作成(手作り)

③利用者の重度化が進み、対応が難しい場合にどのようにすればいいか悩んでいる(3人)

 事例検討会で、認知症について**グループワーク**と**講義**の実施
多職種連携勉強会の実施

④看取り、ターミナルケアについてもっと理解を進めていくことが必要ではないか(3人)

 **在宅医療講演会、地域連携フォーラムを開催し、在宅医療への理解と啓発**

在宅医療とは≠在宅で「医療」を受けるということ
 在宅医療とは=在宅での「生活」を支援するための一手段

生活
住まい

山間部の高齢者世帯が多い地域性
施設は常に満床状態

それぞれの垣根を
越えて24時間体制で
生活を支える

福祉

調整役

どこがすべきか...

保健

福祉は医療と連携をとりたい。
しかし...

今後在宅を支えるためには
保健が重要

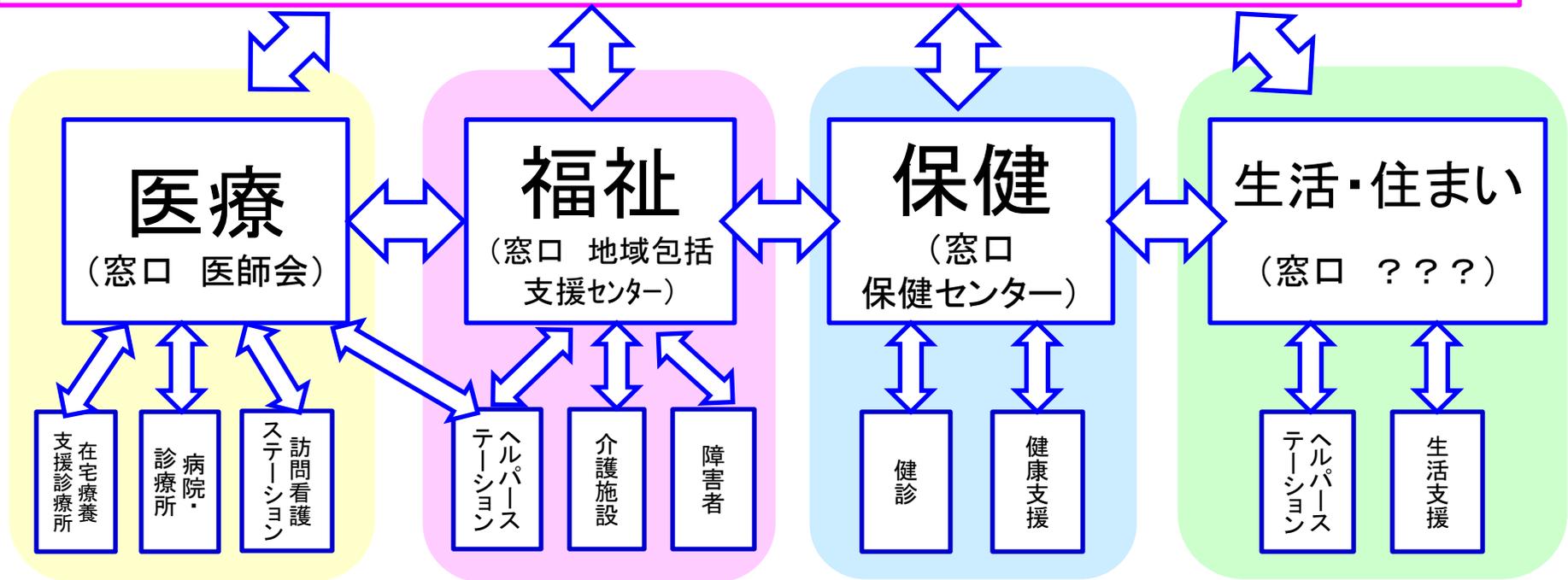
医療

医療を中立的な立場で調整できるのは...

提案①やはり「地域包括ケアシステム」

困った時の駆け込み寺相談センター(仮称)設置

総合窓口(市町村) = 在宅医療連携拠点事業所
地域コーディネーター(調整役)



すべては繋がっている...

提案②住民情報リアルタイムな把握



平成23年3月
美馬市長殿にご提案

こども、おとなが “一生住み続けたいまちづくり”を めざして



私達は・・・

今後、さまざまな分野の方々が協力し合い、
住民の方をどのような状況でもサポートできる体制を作ることで、
安心して、一生住み続けたいまちづくりを目指したいと考えます